

ορπανος

ウーラノス

Vol.12

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

FEBRUARY 2003

「ΟΡΠΑΝΟΣ（ウーラノス）」は、「天」を意味するギリシャ語です。新約聖書において、イエス・キリストは、「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる（ヨハネ福音書6章51節）」と証言しています。この個所にも、ορπανόςの語が用いられています。

特集

『東北学院大学における 法科大学院構想』

NEW WAVE T.G.U.

「地域に根ざした『町弁護士』の養成を目指して」

特集 NEW WAVE T.G.U.
学生たちは、今
歴史を伝え、今に導く
学長室より
入学試験の実施状況
大学院より
学部より
国際交流センターより
研究所・センターより
図書館より
協奏、そして共創へ
就職部より
入試センターより

表紙：多賀城キャンパス礼拝堂

聖書に記されている「新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない」の言葉のように、法科大学院の主要施設となる東北学院大学総合研究棟の新築工事が、平成16(2004)年2月の竣工を目指して始まります。新しい時代にふさわしい高等教育機関として、私たちに託されている使命を遂行してゆきたいと願っております。

『東北学院大学における 法科大学院構想』

—地域に根ざした“町弁護士”の養成を目指して—

法科大学院の設立に寄せて

東北学院大学が法科大学院を設立する意味として、設立準備委員会で取り上げられたコンセプトの一つである東北地方で活躍する弁護士の養成ということがあります。その時、私の念頭に去来するものがありました。それは、東北地方で活躍する弁護士に限らず、東北の市民によって多かれ少なかれ新たに獲得されるべき価値観を明らかにしたいということでした。以下は、先日(財)東北開発研究センターが発行する『東北開発研究』126号(2002.10)に寄稿したこの点についての拙文です。転載の許可を得て、一部省略補筆訂正して記載します。



学長 倉松 功

『(東北の)地方分権・地域経営を支える思想』

日本の政治的統一と近代化は、薩長を中心にしたいわゆる官軍によってなされた。その頂点にあったのは、大和朝廷以来の天皇であった。その大和朝廷とそれを担ぐ諸幕府にとって、東北は征服されるべき蝦夷(えみし)であり夷狄(いてき)であった。

しかし、歴史的に見ると、青森県の三内丸山遺跡にみるように、東北は大和朝廷が出現する数千年以上も前に、政治・文化の中心を持っていた。また、我が国の統一の過程も、イングランド対スコットランド、ウェールズ、あるいはプロイセン対バイエルンのように、対置して捉えてみることもできる。要するに、蝦夷とか官軍とか賊軍というのは、全く支配上の位置関係から生じたものである。情報社会の今日、政治・経済の中央集権の中心から見た中央と地方の構図が、そのまま細分化された文化・芸術・学問・科学の中心では、もはや到底あり得ない。ましてや、人

間の価値や社会的地位を決定するものではない。

前述の視点からして、戦後、高橋富雄教授(東北大学)によって始められた「東北学」が、朝廷と東北との歴史的位置関係を明確にしたことの功績は大きい。それに続く、北海道・東北の古代・中世・近世史関係についての本学史学科の歴史研究(大石直正教授、難波信雄教授、辻秀人教授など)の成果や、文部科学省の援助を得ての中国東北部、沿海州、シベリア、サハリン、東北・北海道を含めた広域の国際的共同研究(細谷良夫教授、谷口満教授、榎森進教授、佐川正敏教授など)は、日本における東北の位置・役割を、日本を越えた視点から一層明確にした。

いずれにしても、これからの東北の地方分権と地域企業経営という政治的経済活動は、それ自身は極めて政治的経済的問題である。しかし、それを思想的に支えるものは、多かれ少なか

れ、下からの民の活動と切り離すことはできない。人々の自立した市民活動、官中心から民中心への展開と運動したものとならざるを得ないであろう。地方分権を強かに推し進めるためには、民にできることは民に任せ、官にできることに官の権力と財力は集中することである。個人の能力、発意と利害関係を最大限利用することである。そのようなデモクラシーの思想は、教育、人間形成の問題と密接に関係している。また、NPOに見られるような、個人の自由な選択とそれに伴う責任を基礎とした、多様な市民の自由な結社の形成が、今後の日本の、また東北の進む方向でもあろう。その意味でも、東北の高等教育機関の一つとしての本学の知的、精神・思想的役割は重要である。

当時用いられた東北地方の住民に対する蔑視語

東北学院大学では、平成16(2004)年4月に「法科大学院」を設置するため、現在準備を進めています。今回、この法科大学院について皆さんが疑問に思っていることを、Q & A方式で紹介いたします。

法科大学院に関するQ & A

Q 東北学院大学で「法科大学院」を設立することですが、そもそも法科大学院というのは、どんな大学院なのでしょうか。

裁判官、検察官、弁護士のことを「法曹(ほうそう)」といい、その法曹になるための試験が「司法試験」です。これまでは、司法試験は誰でも受験できました。しかし、さまざまな理由から、今後は、司法試験を受験できるのは、原則として、法曹になるための専門職教育を受けた人だけになります。その法曹専門職教育をするために、平成16(2004)年4月にスタートするのが「法科大学院」(類似の制度がある米国の呼び名にない「ロースクール」とよばれることもあります)です。

つまり、法科大学院は、将来法曹になりたい人が、それに必要な専門教育を受け、司法試験(その内容も大幅に変わるので「新司法試験」とよばれ、2006年からスタートします)を受験する資格を得るための教育機関です。法科大学院は、もちろん大学院ですので、大学を卒業した人だけが入学できますが、法学部を卒業している必要はありませんし、法学を学んでいる必要もありません。どんな学部を卒業した人でも入学資格があります。

Q 法科大学院設立に向けて、東北学院大学での準備はどの程度進んでいるのでしょうか。

法科大学院の設置申請は今年6月に受け付けられます。本学ではそれに向けて、法人の「法科大学院設立準備委員会」と「同準備室」

法学部・法学研究科による「設置準備委員会」が連携しながら準備にあたっています。

私たちは、地域に根ざした“町弁護士”の養成を目指しています。

教育内容・方法については、既に昨年7月に公開シンポジウムを開き、基本構想を発表しました。また、実務教育のあり方を中心に、仙台弁護士会との協議を続けています。施設の面では、土樋キャンパス内に、法科大学院が入る建物を新築する計画が進んでいます。人事の面でも、準備は着々と進んでいます。

Q 東北学院大学出身の法曹はほとんどいないと聞いていますが、それでも法科大学院の設立は認められるのでしょうか。

これまで何人の卒業生が法曹になっているかということは、法科大学院の設置が認められるかどうかとは関係ありません。設置審査は、あくまで「設置基準」という審査基準を満たしているかどうかで行われます。設置基準を満たした内容の申請をすれば、認可されるはずですが、

むしろ重要なのは、法科大学院は、認可されてから定期的に第三者機関による「事後評価」を受ける、つまりできたものが現にしっかりと動いているかどうかをチェックされるということです。この第三者評価で低い評価を受けることは、法科大学院として致命的です。

つまり、これまで実績がないから認可されないのではないかと、ということをお心配するよりは、認可された法科大学院がいかにも実績を作り上げていくかの方が重要だ、ということです。



『東北学院大学における法科大学院構想』

Q 定員はどのくらいになるのですか。

一学年の定員は50名で考えています。法科大学院は原則として3年で修了ですので、全体で150名の学生が学ぶことになります。

Q 教員はどのくらい必要なのでしょう。

専任の教員は13名で考えています。公法系が2名、民事法系が7名、刑事法系が2名、実務教育系が2名という構成です。何名かの先生は本学の法学部から移ることになりますが、ほとんどは法科大学院の教員として学外からお迎えする先生方です。

もちろん、専任教員のほかに、大学内外から非常勤講師をお願いしますし、何名かの教育補助スタッフもそろえるつもりです。

Q 施設はどうするのですか。

現在、土樋キャンパス内に、法科大学院が入る建物の建築計画が進められています。計画では、地上8階・地下1階の建物が新築され、そのうち地上3階～8階部分を(原則として)法科大学院のために使うことにしています。模擬法廷、講義室、演習室、研究室といった施設に加えて、自学自習や小集団学習のための施設・設備を特に充実させたいと考えています。

Q 授業料はどのくらいになるのですか。法科大学院の設立は大学全体の経営にとって負担とならないのでしょうか。

法科大学院の運営に必要な費用をすべて学生納付金によってまかなうものとして試算すると、学生1人あたり年間約250万円の学納金が必要です。しかし、国立の法科大学院の学納金は250万円よりかなり低い額に設定されることが予想されますし、私立間でも入学者獲得のための価格競争が起こるでしょう。本学も含め多くの法科大学院は、授業料を含めた学納金の総額をいまだ決めかねています。

法科大学院に対する文部科学省からの補助金がどうなるかによって事情は少し変わってきますが、法科大学院が大学全体にもたらすさまざまなプラス効果を考えながら、しかし経営にあまり負担とならない適切な学納金を設定したいと考えています。

Q 司法試験に多くの合格者を出すために、東北学院大学の法科大学院は、どんな工夫をするのでしょうか。

司法試験合格者がどのくらいになるかは、ひとえに、本学法科大学院の教育スタッフが学生をいかに熱心に、いかに適切に指導・教育するかにかかっています。それがうまくいけば、全国平均以上の合格率で司法試験合格者を出すことは十分に可能です。

そこで、本学法科大学院は、「わかりやすく、ていねいに、しかも

世界食料デー・シンポジウム 東北学院大学を会場に開催

経済学部教授 山本 新一

去る10月16日(水)に、世界食料デー・シンポジウムが、本学の押川記念ホールで開催されました。このシンポジウムは、国際連合食料農業機関(FAO)が設立された日を記念して、毎年この日に開催されるものです。これまで、東京、京都など関東・関西地域で開催されてきましたが、今年は仙台ということで、東北学院の同窓生で国際食料農業協会専務理事の松岡将氏(昭和28年高卒)の計らいで、本学が会場に選ばれました。

当日は、FAO土地・水開発部上級専門官のダニエル・ルノー氏が、「水：食料確保の源」の題で、また、日本農業土木総合研究所理事長の中道宏氏が、「第3回世界水フォーラムへの日本・アジアからの発信」の題で、それぞれ世界各地の映像や詳細な統計グラフを、IT機器の操作によって紹介しながら、基調講演を展開されました。

その後、このお二人のほか、国際食料農業協会理事長の松本作衛氏、農林水産政策研究所政策研究調整官の嘉田良平氏(コーディネーター兼任)も加わって、討論・質疑応答が行われました。さらに、会場出席者一般に開放されましたが、同時通訳を通じての講演や討論を熱心に聴いていた200人を超える学外出席者からは数多くの質問や意見が出され、大変活発なシンポジウムとなりました。世界の人々にとって、水がいかに希少で貴重な資源であるかを痛感させられた一日でした。



—地域に根ざした“町弁護士”の養成を目指して—

機能的に」をモットーに多くの教育的工夫を考えています。詳しくは、昨年7月のシンポジウムの内容(<http://www.tscc.tohoku-gakuin.ac.jp/law/lawschool.html>で見ることができます)を参照してください。

Q 既に法学を学んだ人は、3年ではなく2年で修了できると聞いたのですが、本当ですか。

確かに「法学既修者」は2年で法科大学院を修了させてもよいことになっています。しかし、ここでいう「既修」とは、単に、法学部を卒業したとか、大学で法学関係の単位を修得したという意味ではありません。それは、法科大学院を2年で修了させても何ら問題がないほどに法学の基礎知識があるという意味です。そうした「既修者」にあたるかどうかは、各法科大学院が独自に試験をして決めることになります。

Q ところで、法科大学院に進むには、どんな心構えが必要でしょうか。

まず何より、法曹として社会に貢献したいという情熱が不可欠でしょう。その情熱がなければ、法科大学院での勉強にはついていけないはず。

そして、法曹になるためには勉強の苦勞はいとわない、朝から晩まで勉強するつもりであるという心構えも不可欠です。アメリカのロースクールの学生は、授業を含めると1日10時間以上を勉強にあてているといわれます。本学の法科大学院でも、学生は50分授業1回につき150

分程度の予習・復習をすることを念頭において、教育プログラムを立てています。1日に授業を3コマ受ける学生は、計算上、ちょうど10時間の勉強が必要になります。

Q 法科大学院に合格するにはどんな勉強をしておけばいいのでしょうか。

法科大学院の入学試験は、2段階で行われます。まず、入学年度の前年の秋に、全国の法科大学院入学希望者全員が「適性試験」を受けます。この試験は、その名のとおり、法科大学院で学ぶための「適性」、具体的には文章読解力や論理的思考力などを見るための試験です。

次に、各法科大学院ごとの試験があります。本学を含めてほとんどの法科大学院では、小論文と面接がここでの試験の中心になります。合否判定は、適性試験、小論文、面接、書類(大学での成績や課外活動・社会的活動の様子などに関するもの)審査を総合評価して行われることになるでしょう。

適性試験にせよ小論文にせよ、あるいは面接にせよ、法科大学院の入試では、法律に関する知識を問う問題は出さないことになっています。ですから、法科大学院に合格するには、今学んでいることをしっかりと学びながら、文章読解力や表現力、論理的思考力を養い、そして社会的関心と知識を広げることが重要です。

もっとも、「法学既修者」として2年修了コースに進もうという人は、いわゆる「六法」について、しっかりと勉強しなければなりません。

INTERVIEW

学生たちは、今

4年生は、希望と不安を抱きつつ、まもなく卒業を迎えます。今回の「学生たちは、今」では、そのような節目に立つお二人から、大学生活で培ったことやこれからの目標などについて話を伺いました。



文学部一部史学科4年

小原 瑠美

第一女子高等学校卒業
(宮城県)

民間企業内定
東北電力株式会社

地域に貢献する仕事がしたい

就職活動を通して、自分の中に何か発見がありましたか。

私は地域に密着した企業に就職したかったので、東北電力を第一に志望しました。こうして無事に内定を頂くことができたのは、家族や友人をはじめ、たくさんの人たちの支えがあったからだと思再認識できました。特に一緒に就職活動をした仲間とは、落ちる悲しみ、受かる喜びをともに分かち合ったことで、一層つながりが強くなったように思います。

これからは、仕事を通してたくさんの人に出会えると思いますので、そこでまた、新しいことを学んでいきたいです。

大学で培ったこと、学んだことは何ですか。

大学生活の中で常に心がけた

ことが、P.D.S(Plan=計画、Do=実行、See=検討)サイクルでした。計画を立て、それに基づいて行動しても、途中でハプニングが起きてしまい、うまくいかなくなることがあります。その時に、うまくいかなかった原因を考え、改善するための方法を検討して次にいかすという考え方です。

私は、これからも、今まで経験してきたことを、すべて次にいかせるように努力を続けていきたいと考えています。

社会人となってからの目標、希望、夢などを聞かせてください。

東北全域で仕事をする機会が与えられますので、それぞれの地域の魅力を見つけ、それを他の地域の活性化に応用したり、不便さを解消し、地域の生活を豊かにす

る方を練るなど、企業としての地域貢献に携わることができればと考えています。東北電力は地域に密着した企業ですので、何らかの形でそういった関わりができると思うのです。

大学では人文地理学を専攻し、地域活性化事業について学んだので、その知識が役立つと思います。

これから就職活動をする後輩たちへのメッセージをお願いします。

友人たちの中には、就職活動をしていく中で、興味を持てる会社が見つかったという人が大勢います。これほどたくさんの業種の話が聞ける機会は、二度とないのです。

不況や就職難といわれていますが、積極的に活動した人は、皆、内定をもらっているのです。あきらめずに就職活動をしてほしいと思います。



経済学部一部商学科4年

男 澤 透

東北学院高等学校卒業
(宮城県)

公務員内定
大崎地域広域行政事務組合
消防本部

人とのつながりを大切に

就職活動を通して、自分の中に何か発見がありましたか。

私は公務員試験を受ける前に、一般企業の就職活動も行ったのですが、面接で緊張してしまい、思ったことをすべて伝えることができないことが何度もありました。自分がこれほどプレッシャーに弱かったということがあらためて分かりました。

4年間の大学生活を振り返って、特に印象に残っていることは何ですか。

中学・高校では、周囲の人間に合わせていれたいと思っていたのですが、大学では、育った環境や価値観の違う人がたくさんいて、そういうわけにはいけなくなりました。

本当の意味で人と付き合うことは、まず自分がどういう人間であるかをしっかりと理解することが大切なのだと思実感しました。さらに、ゼ

ミで心理学を学んだことで、『人』について根本的に考えるようになりました。

私がこれから携わっていく仕事は、人間に関することなので、この経験と知識は、必ず役に立つと思います。

社会人となってからの目標、希望、夢などを聞かせてください。

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロの際、消防士が自分の命を顧みず人命救助にあたっているのを見て、とても衝撃を受けました。

その頃から、自分も何か人の役に立つ仕事をしたいと思うようになり、いろいろと考えた結果、消防士になろうと思ったのです。

私たちが住む宮城県では、20年以内に大きな地震が起こるといわれていますし、他にもさまざまな災害に見舞われる可能性もありますので、

そういうときに人の役に立ちたいのです。もちろん人の死に接することの怖さ、自分のミスで人の命が失われることもあるかもしれないという怖さもあります。しかし、だからこそ精一杯の努力をしなければなりませんと感じています。

東北学院大学で学ぶ後輩たちへのメッセージをお願いします。

一人の力ではどうにもならないことがあります。就職活動もその一つです。そのような時に、親身になって相談のってくれる友人や、的確なアドバイスをしてくれる年上の人とのつながりを、できるだけ多く持つことが大切です。私は、大学生活の中で、多くの人に出会い、そして影響を受けてきました。このような人との関わりは、私の財産だと思っています。

一般公開を求められたケルカー記念図書館

経済学部教授 仁昌寺 正一

明治24年9月、当時の南町通に完成した仙台神学校校舎の一室に、図書室が設けられました。米国改革派伝道局のルドルフ・ケルカーは、この図書室に特別な関心を示し、多くの書物を提供しました。それ以降、この図書室はルドルフ・ケルカーの尽力を記念しケルカー記念図書館と称されました。開設時には「精選された約千五百冊の洋書、それに加えるに数百冊の和漢書は当時あっては際立った蔵書」(『東北学院百年史』)があったということです。その後、教員や学生数の増加とともに蔵書が増え、特に金子謹三がアメリカで10年にわたって収集した図書や、押川方義が院長辞任後に寄せた同氏所有の数百冊の「得易すからざる著作」(『河北新報』明治36年5月6日)なども加わったことから、内容も一層充実したものとなっていきました。当時の新聞が「市内図書館にして、新書、殊に洋書最も多きは東北学院」(『河北新報』明治36年10月13日)と報じたのも、決して誇張とはいえませんでした。

ところで、このような状況にあった東北学院図書館には、ある意味では当然のごとく、多くの貴重本を市民にも閲覧させよという一般公開の要望が寄せられました。これに対して、東北学院は「正午より四時までの間なれば同院関係者の紹介を有する者に限り縦覧を許す」(『河北新報』明治36年10月13日)ことを決定しました。ところが、市民は、これにはなおも不満なようで、さらに広範囲の人に開放することや、閲覧時間をもっと延長することを要望しました。例えば、『河北新報』明治36年10月16日には、閲覧時間を「六時までとなし下さらば更に便宜なるが、左様住かめものや同学院理事に問う(読書生)」という投書が寄せられています。

このような反響の大きさに驚いたようで、東北学院当局は、ただちに「公開して読書界に貢献したしとの意切なれども、目下の処にては設備上遺憾ながら其の運びに至り兼ね居るを以て、其の相談はありたれど当分見合わせる事とせし」(『河北新報』明治36年10月16日)としました。多くの市民が押し寄せれば收拾がつかなくなると判断したのでしょうか、一般公開を取りやめることにしたのです。

以上、今回は、洋書の宝庫といわれたケルカー記念図書館に関して起きた一つの小さな事件を紹介しました。その後、東北学院の図書館は、場所も建物も名称も変わり今日に至っていますが、3つのキャンパスの図書館や大学院図書館、各研究所を合わせると、蔵書数は100万冊を超え、東北地方屈指の図書館になっています。また、一般公開についても、地域に開かれた大学を目指してさまざまな工夫がなされています。



ケルカー記念図書館

東北学院同窓会が設立
100周年を迎えるにあたって

総理事 稲垣 弘輔

東北学院同窓会は、明治36(1903)年11月25日に母校東北学院が創立17年を経過し、卒業生も100余名に達したのを機に結成されました。

その後、大正8(1919)年3月2日の仙台大火によって中学部の校舎が焼失、翌3日には、仙台商窓会が臨時総会(参加者70余名)を開き、「再建築基金」の募金活動を開始し、そのため、各地に支部を設けて同窓会を強化することになり、仙台・大阪・横浜・石巻・福島・岩沼・名古屋の7ヶ所が選定されました。これが東北学院同窓会支部結成の始まりで、目標額50万円の募金活動開始とともに、東京・京都・神戸・札幌、さらに、サンフランシスコにまで支部結成が及びました。

今では、同窓生約13万6千名、支部数80、TG会・同期会等が130余りを数えるほどに発展しています。

平成15年に東北学院同窓会が設立100周年を迎えるにあたり、100周年企画委員会、同実施委員会を設置し、記念行事の立案・実施に向け、各支部・TG会の協力のもと、準備にあっています。

記念行事予定

東北学院同窓会100周年記念
英国・イートン校聖歌隊公演

期日：平成15年4月15日(火)

場所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

(土樋キャンパス)

対象：同窓生、一般市民

東北学院同窓会100周年記念
TG交流カクテル&ビアパーティ

期日：平成15年7月25日(金)

場所：仙台国際ホテル

会費：5,000円

東北学院同窓会100周年記念
講演会(企画中)

会費：無料

対象：同窓生、一般市民

東北学院同窓会100周年記念
チャリティゴルフ大会

期日：平成15年11月14日(金)

場所：仙台カントリークラブ

会費：未定

東北学院同窓会100周年記念礼拝

期日：平成15年11月15日(土)13:30~

場所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

東北学院同窓会100周年記念
韓国・平澤大学校芸術学部演奏会

期日：平成15年11月15日(土)14:00~15:30

場所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

入場料：無料

東北学院同窓会100周年記念
式典&記念パーティ

期日：平成15年11月15日(土)17:00~19:30

場所：江陽グランドホテル

参加料：未定

対象：来賓、同窓生

記念碑・記念記録(DVD)等の製作

問い合わせ先 東北学院同窓会

TEL 022-264-6468 / FAX 022-214-0404

E-mail: dousou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

From the President.

学長室より

卒業生の受賞

学長 倉松 功

春秋2回、国や政府による表彰があります。官職に就いた方々の表彰が主です。同じ政府の表彰でも、芸術や企業分野では必ずしも官が重んじられることはありません。他方、民間で行われる文学・芸術分野の表彰は、対象とする賞の主旨に沿った多様な独自の選択が行われ、そこに豊かな社会、あるいは社会の成熟度を見る思いがします。

昨年秋、本学の卒業生で二人の方が、文学・芸術賞を受賞しました。一人は、既に文学界新人賞を受賞し、芥川賞受賞候補にもなった若合春侑(ワカ イ スウ)さん(昭和56年経済学部経済学科卒業)です。本誌「ウーラノス」第11号で紹介した氏の最新刊『海馬の助走』(中央公論新社)が10月に講談社「第24回野間文芸新人賞」を受賞されました。『海馬の助走』は、港町を象徴する人々を描き、主人公は、本学二部で学ばれた著者の父上をモデルにしています。漁業・漁港は、戦後日本の社会・経済史において特異な変化を経験しました。海産物商の営みは、農業以上に日々の天候の影響を受けます。大変不安定なものです。漁業資源の変化、漁業市場価格の全国化、国際化、とりわけ港町の人々の気質は農村には見られないものがあります。それら文化の多様性を、ある家族を中心に描いています。本格的文学作品と思いました。本書には、小編「掌の小石」も収められています。これは、本学の同窓生ならではの作品です。日頃、本学での礼拝司会を担当している一人として、このような形で大学生活を送り、聖書の言葉を受け留めておられることを知り、深い喜びを禁じ得ませんでした。この小品を読まれる同窓生には、共感を覚える方も多いでしょう。なお、著者は、御父子共々松木太郎先生、筒井徹先生などに学ばれた由です。

前者とは異なり極めて現代的な、讀賣新聞社と清水建設主催、新潮社後援「第14回日本ファンタジーノベル大賞優秀賞」を、文学部史学科を昨年春に卒業しました小山歩(オヤマ アユミ)さんの『戒』が受賞されました。この賞は、SF、怪奇幻想小説に与えられるものです。在学中は日本古代史担当の熊谷公男教授の授業に興味を引かれたようです。受賞作品『戒』は12月中旬に新潮社よ

り発売されました。インターネットによると、「あらすじ」は以下のようです。

― 舞台は古代帯沙半島の小国・再。主人公の戒は再国の世継ぎ、公子・明の影となって生きる決意をする。公子・明は名君として王位について国を治めた。しかし、中途半端な自分がそれらの周囲の人々を犠牲にしていたことに気づく。架空の国、再国の信仰、それに基づいた差別感、また、半島に残る様々な伝説や習俗を織り交ぜ、歴史上の謎とされていたという戒の一生を鮮やかに描く ―

前記二つの新人賞のように全国的ではありませんが、仙台では去る11月14日に七十七ビジネス振興財団による「七十七ビジネス大賞」の贈呈式がありました。大賞3件の中、2件は本学卒業生が経営責任者となっている企業でした。以下、審査委員会の贈呈理由に基づいて受賞理由を同委員会の許しを得て記します。

一つは、1912年創業の(株)白謙蒲鉾店で、社長の白出征三氏は文学部経済学科昭和40年卒業です。現在は、仙台、盛岡、郡山などへも販路を拡大しています。「白謙のかまぼこ」として根強い固定客に加え、新たな支持層を拡大するなど、人気・知名度は着実に上昇中であり、今後も地元業界を代表して大きな飛躍が期待される企業の一つです。

次は、1959年設立の平禄(株)で、社長の江川進興氏は昭和50年に工学部応用物理学科を卒業しました。「元禄寿司」の名でいわゆる「回転寿司」チェーンのさきがけとして事業を開始し、平成9年に現在の「平禄寿司」に改称しました。店舗は、北海道、東北、関東に88店舗を展開中です。現在、東日本におけるドミナント展開を強化中で、平成13年4月には店頭上場を果たしています。今後は、韓国、香港など、主にアジア地域での展開も視野に入れ、現在市場調査を実施するなど、さらなるマーケット・企業の拡大を志向する成長企業です。

この秋の受賞者の中で、叙勲以外に筆者の気付いた方々を紹介しました。その他の分野で活躍され受賞された方々もあるかもしれません。受賞の栄に浴しないが、地の塩として努力されている方々の上にも思いを馳せるものです。

入学試験の実施状況

今年度の傾向

平成15年度入学者選抜のための各種推薦入試、社会人特別入試(A日程)、AO入試(A日程、B日程)等が、昨年12月までに終わりました。その結果は以下のとおりです。

学業成績による推薦入試

学業成績推薦は「指定校制」とっており、本学が指定した高校から、指定された学科・専攻に推薦された方だけが受験できます。受験した方は、特別の事情がないかぎり合格となります。今年は指定基準を見直し、指定校数が増加したこともあって、昨年より58名多い455名の出願があり、受験者は全員が合格しました。

資格取得による推薦入試

経営学科のみ対象で、本学の指定した商業高校から推薦された簿記の一定の資格を持つ方だけが受験できます。今年は昼間主コース、夜間主コースあわせて27名の出願があり、全員が合格しました。

キリスト者推薦入試

プロテスタントだけでなく、カトリックの方も出願できます。今年は出願者が3名で、3名とも合格しました。

スポーツに優れた者の推薦入試

全国どこの高校からでも出願できる公募制です。出願予定者に対して昨年から実施している予備審査に、今年は大半の方が申請されました。出願者は126名で昨年は13名下回りましたが、入学後に活躍が期待される113名が合格しました。

夜間主コース社会人特別入試(A日程)

英文、経済、経営の3学科の夜間主コースで学ぶ、社会人のための特別入試です。今年の出願者は3学科あわせて14名で、12名が合格しました。この試験に合格して入学し、一定の職業を有している方を対象に、本学独自の給付奨学金制度があります(出願時に申し込むことになっています)。夜間主コース社会人特別入試は、3月5日にB日程としてもう一度実施されます。

アドミッションズ・オフィス(AO)による入試

面接と小論文を中心とする新しいスタイルの入試で、4年目を迎えました。今年は、A日程の第一次選抜(書類審査と面接)に昨年と同数の865名、第二次選抜(小論文と短い面接)には昨年より58名多い506名が出願し、334名が合格しました。またB日程の第一次選抜には75名、第二次選抜には48名の出願があり、30名が合格となりました。

TG推薦入試

東北学院高等学校と東北学院榴ヶ岡高等学校からの推薦入試です。東北学院高等学校から120名、東北学院榴ヶ岡高等学校からは101名の出願があり、全員が合格しました。

ヨーロッパ文化研究の 新たな拠点づくり

ヨーロッパ文化研究所は、昨年5月23日に倉松功学長をはじめ各関係者の列席のもと開所式が行われて以来、現在土樋キャンパス7号館4階の大学院文学研究科ヨーロッパ文化史専攻の資料室において、着々と整備を行っています。全ヨーロッパに関する洋雑誌をはじめ、基本図書の収集を開始していると同時に、コンピュータ・サーバー、スキャナなどの情報処理関係の機器を設置するなど、情報発信の準備にも取りかかっています。他の文化研究所と連携した研究体制の一役を担いたいと鋭意努力中です。

秋季講演会の報告

カウンセリング・センター

平成14年10月3日に開催されたカウンセリング・センターの秋季講演会は、「カナダでの30年 異文化適応とアイデンティティ」と題して、プリティッシュコロンビア大学助教授の石山一舟先生を講師にお迎えしました。石山先生は、日本独自の心理療法である森田療法を実践し、また反人種差別教育に関してカナダの国や州政府への助言指導を行うなど、幅広く活躍中です。講演では、先生ご自身の大学以来30年に及ぶカナダでの学業や仕事などにも触れながら、異文化における適応の問題について具体的にお話し頂きました。

第3回目となるホームカミングデー(同窓祭)を開催

昨年10月19日(土)に、本学を卒業して20年目、30年目、40年目、50年目の方々並びに元教職員の方々を招待し、第3回目となる平成14年度ホームカミングデー(同窓祭)を開催しました。これは、同窓生相互の親睦や現役学生との交流、また同窓生と大学の絆を深めていただきたいという願いから生まれた催しです。当日は、300名を超える参加があり、特別講演会やバイブオルガンコンサート、昼食会などが行われました。また、この日は、東北学院普通科(のちの中学部)で教鞭をとった島崎藤村の没後60年を機に企画された展示会や講演会も開催されました。

Time for growing.

Graduate school info. 大学院より

法学研究科

税務訴訟補佐人研修について

法学研究科が東北税理士会からの要請を受けて実施した「税務訴訟補佐人研修」が、昨年12月に全日程を無事に終えました。この研修は、税理士法が改正され、税理士の方が税金に関する訴訟(税務訴訟)に補佐人として参加できるようになったこととともない、実施されたものです。研修では、大学院レベルの授業を6単位相当分受講することが義務づけられています。

法学研究科は、昨年4月、東北税理士会からの研修への協力要請を受け、税法4単位分と民事訴訟法2単位分を内容とする研修プログラムを作成しました。6月に参加者を募集したところ、20

名の定員に対し、50名を超える応募があり、税理士会の選抜で23名の参加者を決定しました。参加者は、青森県、秋田県から各1名、岩手県3名、山形県4名、福島県と宮城県が各7名でした。また、そのうち4名が女性でした。

授業は、7月25～27日、8月26～28日、9月12～14日の3期にわたって行われました。講師は、税法が本研究科非常勤講師の北野弘久日本大学名誉教授、民事訴訟法は本研究科の林伸太郎教授が担当しました。各参加者とも研修への期待は大きく、授業への取り組みも非常に熱心だったため、授業が予定の時間を超えることもしばしばでした。

研修も終わりに近づいた9月13日には、参加者の親睦を深めるための懇親会が東北学院同窓会館(TG会館)で行われましたが、税理士会や参加者からは、研修開催に協力した本研究科への謝辞が多く聞かれました。ちなみに、今年度、こうした研修が行われたのは全国で4か所にすぎないとのこと。

研修終了後、参加者には10月末までのレポート提出が課され、その内容が審査された上で、結局20名が合格とされ、12月に研修修了証の交付を受けました。

この研修に対しては、大学院の社会的貢献という観点から、これからも積極的に協力していくつもりです。

宮城県知事を講師に

平成15年度より経済学部経済学科で特殊講義「地域産業政策講座」を開講

「みやぎのモノづくり」、「おいしいごはんの話と宮城の米戦略」、「農漁家レストランとアグリビジネス振興」、「複眼での県土づくり(県土開発と農村整備)」、「物流と空港等について」。経済学部経済学科において来年度の特殊講義で予定している「地域産業政策講座」の講義タイトルの一部です。

経済学科では今年度から既に野村證券による講義を開講していますが、今回の宮城県庁で産業振興に携わるの方々による講義もそれと軌を一にするものです。つまり、学問としての経済学は、経済社会の動きの解明を主要な目的としていて、前提を設け、モデルを設定して議論を展開することが多くなります。実際の経済の動きもそのような分析手法を用いて説明することが一般的になります。けれども、このようなことを学んだ卒業生が飛び込む経済社会の中では、経済学の分析手法が想定していない出来事も数多く見られます。学生は目の前の出来事に振り回される必要はありませんが、この講義は大学で学ぶ経済学と実際の経済社会のギャップを埋める手立ての一つになるのではと考えています。

地域経済の舵取り役の方々に、宮城県の産業政策を通じての取り組みの姿、苦悩、試行錯誤、失敗、格闘、面白み、そして予想外の結果などを話してもらい、経済社会の実態の一部に触れることができればと思います。

連携大学院から初の修士誕生

工学研究科

平成11年度に、東北学院大学大学院工学研究科と独立行政法人産業技術総合研究所東北センター(当時は、通商産業省工業技術院東北工業技術研究所と称した)と連携大学院の提携を行い、現在に至っています。産業技術総合研究所は独立法人化により設立された、我が国最大の研究所で、東北センターをはじめ、筑波など2つの本部と9の研究センターで構成されています。東北センターは、苦竹にある陸上自衛隊仙台駐屯地の東側に位置し、超臨界流体研究センター、基礎素材研究部門及びメンブレイン化学研究ラボの3研究ユニットと東北産学官連携センターで構成されており、約30名の常勤の研究

員がそれぞれの研究に取り組んでいます。約20年前に、本学工学部機械工学科(当時)の故・千葉三正教授と同研究所の池内準・地熱材料開発課課長(当時)が東北大学の同窓であり、また同じ職場に勤務していたことが縁で、卒業研究を中心とした共同研究を始め、その後、幾人かの教員に引き継がれ、研究室単位で卒業研究などを約20年間にわたり継続して行ってきました。その実績が、最初に述べたように平成11年度に連携大学院という形で結実しました。

平成12年度に、産業技術総合研究所東北センターで卒業研究を行った狩野拓広さんが、連携大学院初めての大学院生と

なり、同研究所の連携大学院教授・及川勝成主任研究員の下で強磁性形状記憶合金の研究を行っており、平成15年3月には連携大学院初めての修士(工学)が誕生する予定です。狩野さんは、これまで使われてきている感温型の形状記憶合金と比較して、応答性が高い強磁性形状記憶合金に着目し、マイクロマシンに使う可能性を求めて、応答性が高く、加工しやすい強磁性形状記憶合金の薄膜化を目指して研究を行ってきました。このような研究は、医療機器など、機械の微小化が求められている工業界において今後ますます重要となる分野であり、修士論文の提出が待たれます。

Faculty info.

学部より



法学部

意識調査から見る 法学部新入生の受験理由と満足度

法学部の齋藤誠教授は、昨年4月、法学部新入生を対象に意識調査を行いました。

その詳しい結果報告は、近く『東北学院大学法学政治学研究所紀要』11号に掲載されます。ここでは、その中から、興味深いデータのいくつかを紹介します。

まず、法学部を受験した理由についてです。理由として最も多くあげられたのは、「法律知識をいかした職業につきたいから」(37%)です。これを選んだ人は、男子より女子で、また、A0入試による入学者と学業推薦による入学者が目立って多くなっています。

また、この人たちは、「司法試験・公務員試験対策が熱心そうだから」という受験理由をあげる割合も高くなっています。実際、女子やA0入試、学業推薦で入学した新入生には公務員希望者が多く、法学部の公務員講座への期待から法学部を受験したといえそうです。

それに対して、「法科大学院を設置するから」法学部を受験したという回答はわずか4%で、法科大学院設置の効果はあまり見られませんでした。しかし、一般入試の後期日程を受験した人には、法科大学院の設置を受験理由としている割合が目立って高くなっていることは注目されます。

ところで、新入生は本学に入学して満足しているのでしょうか。回答は「志望校だったので満足」が42%、「別に行きたい大学もあったが、まあ満足」が40%、「別にもっと行きたい大学があり、少し不満」は15%、「本学入学は希望していなかったので、大いに不満」は3%となっています。最初の2つを合計すると、82%の新入生は本学入学に「満足」していることになります。

しかし、ちょっと気になることもあります。「志望校だったので満足」という回答率は、A0入試と各種推薦入試による入学者では67~87%と非常に高いのですが、一般入試(前期日程)による入学者ではわずか24%です。そして、A0入試・推薦入試による入学者と一般入試による入学者の間に見られる満足度の差は、前回1994年の調査よりも広がる傾向にあります。

輝く教育・研究

「保険契約法の研究」 法学部教授 梅津 昭彦

物的・人的危険に立ち向かう事前・事後の手段であり、将来の安心という、抽象的ですが意外と頼もしいものを提供してくれる存在が保険です。

保険は法的に見れば契約の一種ですので、保険をかけた後保険金を請求したりする際には、法的な問題が起きることがあります。例えば、いざというときに保険会社に保険金を請求したら、「このような場合にはお支払いできません」と言われ、「そんなことは担当者から聞いていなかった」と争いになることがあります。このような争いを

解決するには、「そんなことは聞いていなかった」ということが法的にはどのような意味があるのかを分析し、保険会社と顧客とのあるべき姿を探求しなければなりません。

上の事例に典型的なように、目に見えにくい商品である保険の場合、それだけにかえて、実際の具体的な契約にあたっては、契約者と担当者間の信頼関係が重要になります。その意味では、抽象的に見える保険の場合にも、やはり他の契約と同様に「人」が中心なのです。

工学部

環境土木工学科の 教育と研究のユニークさとは

本学の環境土木工学科には、他の大学の土木系学科とは異なるいくつかの特長があります。モノ作りを工学的に理解するようになるという点では、どの工学分野にも同じ教育目的があります。その中で、土木工学が対象とするモノ作りとは、都市全体、交通体系、水利用・管理や自然災害の防止施設といった、いずれも巨大なモノを建設することです。また、土木工学が対象とするモノ作りのための新しい科学技術を教育し、研究するという点でも、他の大学の土木工学科とは変わりありません。

それでは、本学の環境土木工学科の他大学のそれらから異なる特長とは何でしょうか。それは、まず自然環境を深く理解することが、勉強の出発点になっていることです。私たちの生活の基盤となっている地面、山、川、海、そしてそれらを取り巻く空気が、まずどのようなものとして存在しているかを十分に知ってもらうための教育プログラムが組まれています。その上で、自然環境をどのようにして守るか、そしてその環境の中に何をどのように建設することが許されるかを考えることができるようになるための教育プログラムを準備しています。

このようなユニークな教育プログラムを用意した理由は、自然環境を十分に理解した技術者にのみ、それに手を加えることが許されていると考えるからです。一度本学の環境土木工学科を訪れてみてください。そうすれば、このことの意味がよく分かっていただけるものと思います。



機械創成工学科の教育と研究の紹介

平成14年4月より、機械工学科を機械創成工学科と改称して以来、その名にふさわしい研究や業界に対する貢献と新企画がキャンパスの内外で展開されています。主な事例を2、3紹介します。

原子力発電所関連施設に関する事故防止策(大島亮一郎教授)
燃料棒が格納されている圧力容器の内面は、長期にわたり高温高熱にさらされると、疲労により亀裂を生じる恐れがあります。現実には放射能を有する沸騰水が満たされた状態で修復しなければならず、困難を極めます。しかし、ロボットによる無人操作により、キャビテーション効果を逆利用して残留応力を除去し、見事修復に成功しています。「気体軸受設計ガイドブック(共立出版)」を刊行(十合晋一教授)
既に出版している「気体軸受～設計から製作まで～」を補強するもので、各種静圧・動圧気体軸受の性能計算や数値計算並びに応用例が詳しく述べられています。どんな気体軸受もこの一冊で設計可能となり、研究者や現場技術者から高い評価を受けています。

宮城県知事より環境審議会専門委員就任の要請(水谷弘教授)
地球温暖化対策地域推進計画策定のための専門委員会への出席は、地域住民に対する福祉向上を図ることになります。本専門委員会の主旨は、機械創成工学科の「自然と人間、社会と人間」との共生を願う主旨に合致しており、学識経験による提言が求められています。さらに平成15年4月には、制御工学・ロボット工学を担当する新進気鋭の若手教員が着任し、客員教授としてロシアよりウクライナ国立科学アカデミー磁気研究主任研究員が着任する予定です。また、かねてより進めていた韓国大仏(デブル)大学との国際交流協定が、平成15年度中に締結される見通しであり、明るい展望が開けようとしています。

International info.

国際交流センターより

国際交流協定校の一つである韓国の平澤(ピョンテック)大学からの交換留学生、朴恩瑛(パクウンヨン)さんより、本学で勉学に励みながら感じたことを日本語で書いてもらいました。朴さんは、1年間教養学部所属し、本学で取得した単位は平澤大学の卒業単位に振り替えられ、4年生である朴さんはこの春に平澤大学を卒業する予定です。

日本で私が感じたこと

朴 恩 瑛

私は、韓国の平澤大学から交換留学生として昨年の4月に日本にきました。大学で3年間日本語を勉強して、もっと日本のことが知りたくなり、この大学に来ることになりました。韓国と日本は同じアジアの国なので似ていることも多いですが、やっぱり違うこともいろいろありました。

今、私は泉キャンパスにある女子寄宿舎で日本人の友達と一緒に暮らしていますが、みんなは「他の人に迷惑をかけないように」という意識が強く、最初の頃は友達と仲良くなれるまでに少し時間がかかりました。でもお互いを配慮するこの考え方は必要だし、いいことだと思います。

日本に来て本当にうらやましいなど思ったことがあります。それは、成人式や卒業式に着物を着ることです。韓国の若者は韓服(ハンボツ)。チマソゴリのことですが、正しい名称はハンボツです)をあまり着ないです。普通お正月やお盆の時に韓服を着ますが、子供や結婚したばかりのお嫁さん、そしてお年寄りくらいしか着ないです。若者が自分の国の伝統を継いでいくということは素晴らしいと思います。私の成人式はもう終わりましたが、きれいなハンボツを着て写真一枚撮りたいですね。

韓国と日本、世界で一番近い国なのに、両国についていつも「近いが遠い国」と言われています。その言葉を「近くて近い国」に変えるのが私たち若者の課題ではないかと思っています。今、この大学で韓国に興味がある人たち10人ぐらいと週一回会ってお互いに言葉を教えたり、文化の違いを話したりしています。小さな集まりですが、両国がどんどん「近くて近い国」になっているようで嬉しいです。韓国と日本の友好関係づくりを、ここ東北学院大学から始めましょう!

国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)
Fachhochschule Wiesbaden ヴァイスバーデン(ドイツ)
Pyeongtaek University 平澤大(韓国)
Nankai University 南開大(中国)
University of Durham デラム大学(イギリス)
University of Ulster アルスター大(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局
TEL 022-264-6425/6404

Institute for Research and Center info.

研究所・センターより

現代社会との共生を目指して

法学政治学研究所

本学法学部の専任教員を研究スタッフとする研究所の活動内容は、法律・政治学関係の組織的研究が中心であり、その成果の社会還元の一環として、研究所紀要を発行し、学術講演会や公開講座を開催しています。

学術講演会には、法学・政治学の分野で著名な研究者を招き、現代社会の問題をテーマに講演をお願いしています。最近では、元朝日新聞編集委員・石川真澄先生に「現代政治を観る目」、京都大学大学院教授・田中成明先生に「現代日本の法と裁判を考える」、中央大学法学部教授・野村修也先生に「これが金融行政の現場だ」と題する、極めてアップ・トゥ・デートな講演をしていただきました。来年度は、京都大学大学院教授・大石真先生(憲法学専攻)を講師としてお招きする予定です。

公開講座は「市民生活と法」の統一テーマで、本学法学部の教員がそれぞれ専門分野の研究成果を分かりやすく講義します。本年度は、「ルールとは何か」、「冷戦後の欧州国際安全保障の仕組み」、「国際刑事裁判所とは何か」、「日本中世後期における紛争処理」、「消費者金融の問題点」など、充実した講義内容で、参加者から好評を得ています。

今後の活動としては、これまでの活動内容に加えて、学内外の研究者との共同研究を考えており、そのための研究プロジェクトの具体的検討が、関係する研究員を中心に現在進行中です。

問い合わせ先 法学政治学研究所(法学資料室内)
TEL.022-264-6406



Library info.

図書館より

特別企画

「島崎藤村と東北学院」展を終えて

「島崎藤村と東北学院」展の開催が正式に決定したのは、開催の4か月前のことでした。最初に、本学図書館所蔵の藤村関連資料(『東北文学』、『仙台神学校文学会雑誌』、『芙蓉峰』)宮城県庁所蔵文書、また藤村に加え、岩野泡鳴、押川春浪らについての文献を整理し、あわせて『東北学院七十年史』、『同百年史』なども参看しました。これら50点ほどの資料を教養学部の渥美孝子教授が読み、さらに渥美教授が必要と判断された資料の収集を図書館が行いました。幸い近年は他の図書館との相互利用制度が整備されて、図書の現物貸借や文献複写が容易になっており、それらを最大限に活用しました。

次に、展示品、図録作成資料等の収集作業に入りました。藤村文学にとって仙台時代は重要な意味を持っているといわれますが、滞在期間が10か月に過ぎず、本学資料室、法人本部、図書館所蔵の資料だけではいささか不十分であり、各方面からの協力を得ました。布施家からは布施淡の書簡(夫人宛)、仙台文学館からは藤村の直筆原稿、押川春浪の小説、作品の掲載雑誌、また宮城県美術館からは布施淡の絵画作品(所有は布施敬二郎氏)を借用しました。この間の諸手続き、著作権、肖像権の問題、写真撮影作業等については初めてのことであり手探りの状態でしたが、仙台文学館からの助言などもあり、無事、2002年10月15日から20日までの6日間の展示会を開催することができました。

図書館では、今後も機会あるごとに展示会を予定しております。関係各位の協力に感謝いたします。

問い合わせ先 図書館事務局
TEL.022-264-6491



展示会の様子

協奏共創

協奏、そして共創へ

語り継ぐ伝統

変わらぬ『ラーハウザー記念東北学院礼拝堂』土樋キャンパス



学務担当副学長 出村 彰

1920年代後半、現土樋キャンパスを高等学部用地として開発する構想が熟し始めた頃のことです。当時のシュネーダー院長の胸中にあったのは、門に入って正面に管理と教育のための建物、向かって右手に魂の養いのための礼拝堂、左手には智の宝庫としての図書館を置きたいという願いでした。現在の本館がまず完成しますが、残り2つの実現は容易ではありませんでした。

アメリカにあって、本学院を支え続けてきた母教会の外国伝道局は、絶えず財政難に苦しみながらも、人件費をまかなうほどの献金は送り続けたのですが、新規の礼拝堂建築計画は思うように進展しませんでした。シュネーダー院長は満一年、アメリカ中を回って募金に努めます。

この祈りに応えるかのように、巨額の寄付を申し出たのがペンシルヴェニア州ピッツバーグ市在住のミス・エラ・ラーハウザーでした。かねてから海外伝道のための献金を惜しまなかったのですが、そのもとを訪れたシュネーダー院長に、いかほどの金額が必要かと尋ねたそうです。数日後、シュネーダー夫妻に手渡されたのは5万ドルと記入した小切手でした。感極まった夫妻は、その場にひざまずいて神に感謝を捧げたと書き送っています。それは完成時点での本体の総工費約11万円を満たすに足る金額でした。現在の金額でどれほどになるでしょうか。

1932(昭和7)年3月19日の献堂式までには、昇天するキリストを描いたステンドグラス、東京以北では最初の本格的なパイプオルガンも設置されます。以後ちょうど70年間、ラーハウザー記念礼拝堂は東北学院に学んだ10数万の卒業生の霊性陶冶の場として、役割を果たし続けてきました。それはまさしく建学の精神の目に見える象徴と言えましょう。ついでながら、3つ目の図書館(旧シュネーダー記念図書館、現大学院図書館)が完成したのは第二次大戦終結後のことでした。

大学改革 事務管理部門の再構築

本年4月1日より、学校法人東北学院並びに東北学院大学の事務管理部門が新しい体制のもとスタートします。検討の過程や新体制の効果などについて、佐治勇・東北学院法人本部長に報告をお願いしました。

法人本部長 佐治 勇

昭和54年3月に発足した「東北学院事務組織検討委員会」及びその後開催された「東北学院企画委員会」において、教育・研究の質的向上、地域社会への貢献、事務機構の改善等の課題について今日まで検討してきました。

この間、事務OA化の促進、予算制度の確立、広報制度の強化、入試部、調査企画課並びに人事課等の新設については各答申に基づいて実現されましたが、複数建てになっている指揮命令系統の一元化、責任体制の確立、職員数の適正化等の問題を抱えている事務管理部門の統合については、委員会から答申はされたものの実現されないまま今日まで至っていません。

平成12年3月に開催された理事会で早急に事務管理部門の統合について検討するようとの諮問を受け、「事務組織(管理部門)統合に関する検討委員会」が同年4月に16名の委員で設置され、20数回の委員会を経て具体化を図るべく審議を重ねてきました。

今回の事務組織の変更は、以前の答申でも指摘されていた事務管理部門における重複業務に伴う事務処理の煩雑化を解消し、さらに事務処理を一元化させることが主な趣旨です。業務の重複に起因する責任体制と業務範囲の不明確な点が改善されたこと、業務の見直しにより適正人員の把握ができたこと、さらに学校法人会計基準に基づき会計処理を行っている財務経理システムが一箇所で集中的に処理することが可能になったこと、各種の関係書類の系統的な整理保管により緊急時にも対応が可能になったことなどがメリットとして挙げられます。

今後は関係諸規程の整備、事務室の配置等を確定し、平成15年4月から新しい組織のもとで一層効率的な業務運営が行えるものと考えています。

なお、事務管理部門に引き続き、昨年10月に設置された「事務組織(教学部門)統合に関する委員会」において、現状の業務分析を行い、それを基に事務教学部門の見直しを検討されることになっています。

Organization 教学組織

大 学 院	文学研究科(博士課程)	英語英文学専攻 ヨーロッパ文化史専攻 アジア文化史専攻
	経済学研究科	経済学専攻(博士課程) 経営学専攻(修士課程)
	法学研究科(博士課程)	法学学専攻
	工学研究科(博士課程)	機械工学専攻 電気工学専攻 応用物理学専攻 土木工学専攻
	人間情報学研究科(博士課程)	人間情報学専攻

学 部	文学部	英文学科 <small>昼間土コース 夜間土コース</small> キリスト教学科 史学科
	経済学部	経済学科 <small>昼間土コース 夜間土コース</small> 経営学科 <small>昼間土コース 夜間土コース</small>
	法学部	法律学科
	工学部	機械創成工学科 電気情報工学科 物理情報工学科 環境土木工学科
	教養学部	教養学科 人間科学専攻 言語文化専攻 情報科学専攻
	文学部二部	英文学科
	経済学部二部	経済学科

昼夜間制の導入のため、文学部二部及び経済学部二部は平成12年度より学生の募集を停止しています。

宗教部	
-----	--

図書館	中央図書館 工学部分館	泉分館
-----	----------------	-----

研 究 所	英語英文学研究所	経理研究所
	キリスト教文化研究所	社会福祉研究所
	ヨーロッパ文化研究所	法政政治学研究所
	宗教音楽研究所	教育研究所
	東北文化研究所	環境防災工学研究所
東北産業経済研究所	人間情報学研究所	

セ ン ター	オーディオ・ビジュアルセンター	教職課程センター
	カウンセリング・センター	国際交流センター
	情報処理センター	入学試験センター

Placement info.

就職部より

就職・採用環境の改善に向けて

本学が加盟する「日本私立大学連盟・就職委員会」は、昨年9月10日、現下の就職・採用活動の早期化とそれに伴う長期化が、21世紀の日本社会を担う若者の育成に大きな影響を与えることを憂慮し、社会全体で人材育成について考えるきっかけとするため、学生の就職活動の環境改善に取り組むための提案を行いました。その取り組みの必要性として、「第一に、学生には4年間の大学生活があり、その時間の中で学ぶ権利が保障されなければならない。同様に、大学においては、教育する権利・義務があるが、現状において、そのいずれも保障され得る環境にあるとは言い難い。第二に、将来に向けての人材育成という面において、次代を担う学生を大学と社会が共に育成する視点が重要であると考えます。そのためには、大学・社会双方の現状に対する理解・自省とともに、国を支える人材の育成を担う大学に対する社会の理解と支援も不可欠である。大学自らは、大学教育の本質を見つめ直しつつ、学生の学びと大学が本来の役割を果たすことができる環境の確保につながる働きかけを、社会に対して行うことが必要である」となっています。

この提案が昨年10月に開催された「平成14年度拡大学生就職支援協議会」において検討され、参加者はまず共通認識を持てる部分を一緒に考え、行動していくことの確認がされました。

本学では、2月初めから3月初めにかけて、3年生対象の「企業研究講座」が始まります。これは、約150社の採用担当者に来学をお願いし、採用状況と選考にあたってのポイントを学生にアドバイスしていただくもので、3年生は本格的な就職活動に突入することになります。

問い合わせ先 就職課 TEL.022-264-6481

Admissions info.

入試センターより

一般入試(前期日程)の志願状況

平成15年度入学選抜のための一般入試(前期日程)が2月1日から4日まで、仙台、多賀城の本学キャンパスのほか、全国7ヶ所(札幌、青森、盛岡、秋田、山形、郡山、東京)の試験会場で実施されました。

志願者は全学で8,911名(昨年は8,842名)募集定員に対する倍率は7.5倍で、各学科・専攻の志願者数と倍率は次のとおりでした。

英文学科(昼)	926名(5.9倍)	法律学科	1,387名(7.9倍)
英文学科(夜)	113名(6.3倍)	教養学科人間科学専攻	430名(11.9倍)
キリスト教学科	7名(2.3倍)	教養学科言語文化専攻	277名(7.7倍)
史学科	796名(7.7倍)	教養学科情報科学専攻	266名(8.9倍)
経済学科(昼)	2,126名(8.5倍)	機械創成工学科	331名(6.6倍)
経済学科(夜)	231名(6.6倍)	電気情報工学科	391名(7.8倍)
経営学科(昼)	1,049名(7.3倍)	物理情報工学科	164名(5.1倍)
経営学科(夜)	194名(12.9倍)	環境土木工学科	223名(4.5倍)

なお、3月6日には一般入試(後期日程)が行われます。

問い合わせ先 入試課 TEL.022-264-6455

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成11年8月1日から平成16年3月31日の期間を定めて、次の事業の完遂に向けて、教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

【募金目標額10億円】

1. 東北学院育英奨学金の増額
2. 東北学院高等学校校舎(家庭科実習室等)整備
3. 東北学院大学教育・管理棟建設(土樋キャンパス)

詳しくは、東北学院法人本部募金事務室までお問い合わせください。
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6458

東北学院大学

土樋キャンパス
大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)
 文学部二部、経済学部二部
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

多賀城キャンパス
大学院：工学研究科
学 部：工学部
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目3番1号
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

泉キャンパス
大学院：人間情報学研究科
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)
 教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号
TEL.022-227-1221(代) FAX.022-227-6302

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
TEL.022-372-6611(代) FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL.022-368-8600(代) FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.12

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課係長	小原 武久
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『(ウーラノス)』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

発行日は、6月20日・10月20日・2月20日です。
なお、平成15年度より、6月20日の発行日を5月15日の創立記念日へ変更いたします。

発行日 平成15(2003)年2月20日
編 集 東北学院大学 広報誌編集委員会
発 行 東北学院大学
〒980-8511
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6424 FAX.022-264-3030
URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/
E-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
印 刷 (株)エイエイピー



古紙配合率100%再生紙を使用しています

この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。